

4月からの主な訪問先

私立中・高

- ・海城中学・高校
 - ・開成中学・高校
 - ・武蔵中学・高校
 - ・専修大学付属高校
 - ・かえつ有明中学・高校
 - ・聖光学院中学・高校
 - ・京北中学・高校
 - ・品川女子学院中学・高校
 - ・女子聖学院中学・高校
 - ・慶応女子中学・高校
 - ・東洋英和女学院中学・高校
 - ・麹町学園女子中学・高校
- など、のべ30回訪問

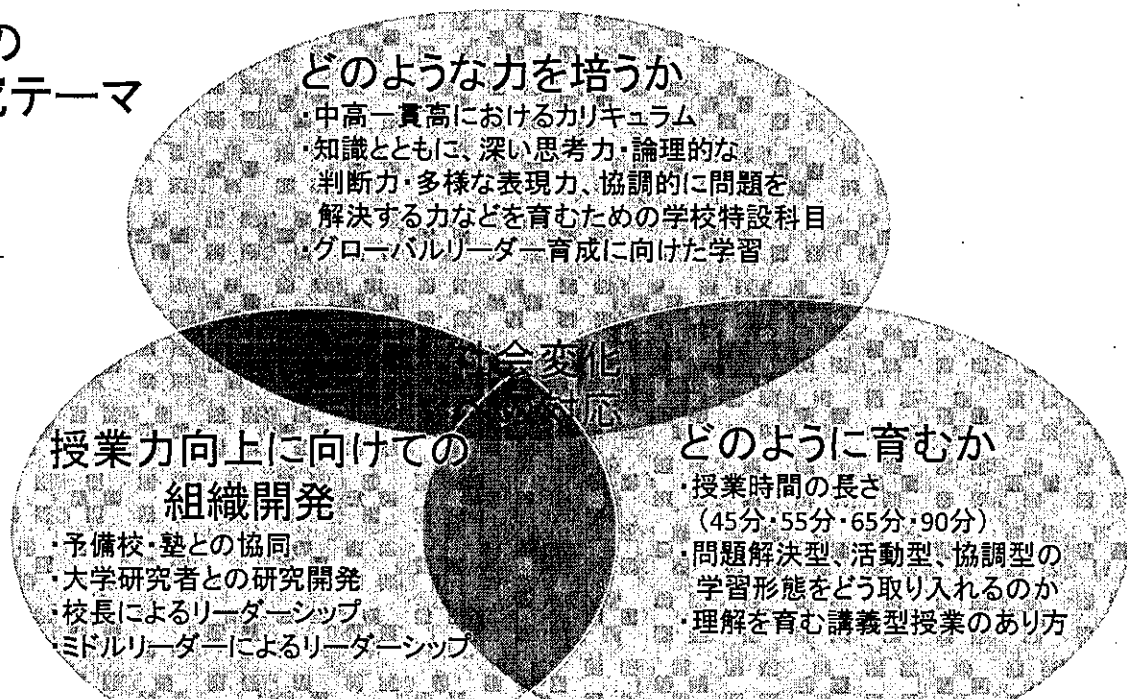
公立高校

- ・都立日野台高校
 - ・都立小山台高校
 - ・都立西高校
 - ・都立日比谷高校
 - ・都立白鷗中学・高校
 - ・埼玉県立浦和高校
 - ・埼玉県立新座高校
 - ・埼玉県立和光国際高校
 - ・さいたま市立浦和南高校
 - ・神奈川県立横浜翠嵐高校
 - ・神奈川県立柏陽高校
 - ・千葉県立千葉中学・高校
- など、のべ20回訪問

予備校・大学など

- ・東進ハイスクール
 - ・四谷大塚
 - ・河合塾
 - ・代々木ゼミナール
 - ・ベネッセ
 - ・本間教育研究所
 - ・首都圏模試センター
 - ・Y-SAPIX 東大館
 - ・東京大学
 - ・東京学芸大学
 - ・横浜国立大学
 - ・産業能率大学
- など、のべ60回訪問

認定こども園・小・中学校訪問、各種研究会や中教審などの審議会への参加を合わせると、
のべ130回訪問

4月からの
調査研究テーマ

福井の子どもたちに、どのような力を、どのように育むと良いのか、
授業力向上につながる組織とは、どのようなものか

特色ある学校の取り組み・・・私立中高一貫高

- ・開成中学・高校

東大合格者数日本一。充実した部活動や行事を通して、協調的に課題を解決する力を育てる。

- ・海城中学・高校

グローバルリーダーの育成を目指す。海外進学へのサポートも開始。演劇を取り入れた授業、野外体験型授業、論文作成など、多様な教育内容を取り入れている。

特別活動や学校設定科目等で、多様な力を育む工夫

3

特色ある学校の取り組み・・・私立中高一貫高

- ・かえつ有明中学・高校

共学ではあるが、高校1年生まで男女別学。男女とも時間数や使う教材などカリキュラムとテスト範囲は一緒だが、毎日の課題や小テストの範囲などのシラバスは男子クラスと女子クラスで異なる。

- ・品川女子学院中学・高校

「28歳になったときに輝いている女性となる」というコンセプトの下で課題解決型授業を展開。多数の企業とコラボレーションしている。

各学校が「スクールアイデンティティ」を立ち上げ、特色ある学校作りを進めている。

4

特色ある学校の取り組み・・・公立高

・都立西高校

校長先生が強いリーダーシップを取って、授業力向上をマネジメント。
毎週、各教科主任や教務部長・進路部長を集めて会議。

・埼玉県立新座高校

ミドルリーダーの提案から始まった毎月一回の公開授業＆研究会を開催。
各学年で1クラスずつの授業を公開。その学年に関わる教員全員が
それぞれの授業を見た上で、生徒の様子について議論を深める。
10年前は困難高として有名だったが、最近は生徒も落ち着き入試の倍率
も上昇。東大教育学部とも連携している。

組織的な授業力向上には、トップダウン型でも、
ボトムアップ型でも、リーダーによるマネジメントが有効

5

塾・予備校の取り組み

東進ハイスクール講師陣との懇談から

- ・東進の講師陣の学習観は、きわめて本質的。各講師が独自のネタや技を駆使しつつ、
鮮やかに問題を解く、といった講義を展開するわけではない。
- ・英語の今井先生も、安河内先生も
「英語ではとにかくネイティブの音源にもとづく徹底的な音読が必要」と強調。
- ・数学の澤村先生は、パターンやテクニックの丸暗記とは正反対の、
体系的に解法を掘り下げていく授業を展開



英語・数学・国語、どの教科の先生からも共通していただいたアドバイスは、
「東大を受験するような生徒であっても、一年生のうちから大学入試問題を使った演習や、
難しい問題をやらせる必要はない。」
「教材の量は最小限にして、少ない教材を用いて徹底的に本質をマスターさせる」の2点

6

塾・予備校の取り組み

代々木ゼミナール

- ・Y-SAPIXの立ち上げ

中学入試で抜群の実績を誇るSAPIX(代ゼミグループ)のノウハウを大学入試にも活かすことを狙って立ち上げる。

- ・東大の先を見る

受験問題を解く「頭のよさ」だけでは、これからの社会では通用しない、という考えの下、東大など超難関大学志望者に対して、大学進学後にも有用な力を育むことを目的とする。

- ・リベラル読解研究

大講義室での一斉講義型授業ではなく、少人数でのディスカッション形式。教科の枠を超えた、読解力、思考力表現力を培うことを狙う

大学進学後にも有用な力を育む試みは、河合塾でも行われている



7

大学研究者と、教育委員会との研究連携

埼玉県教育委員会と、東京大学教育支援コンソーシアム推進機構との研究連携

- ・埼玉県は平成22年度より高校教員の授業力向上を図ることを狙いとして、三宅なほみ教授の提唱する「知識構成型ジグソー法」の実践研究を東大と連携して開始。
- ・初任者研修で「ジグソー法」を用いた協調学習のあり方を学び、初任者はこの方式での公開授業を実施。東大の先生方も来訪し、授業を見て、コメントする。

さいたま市教育委員会と、東京大学認知カウンセリング研究会との研究連携

- ・さいたま市は、高校教員の授業力向上を図ることを狙いとして、市川伸一教授の提唱する「教えて考えさせる授業」の実践研究を東大と連携して開始。
- ・2校を研究指定校とし、年2回の公開研究授業を実施。市川氏は、事前指導も綿密に行う。

組織的な授業力向上には、大学研究者との連携が有効。
ただし、研究理論で示された授業形式だけを表面的に取り入れることにならないよう、注意が必要。

8

東京特有？の教育事情

海外在住経験を持つ保護者が急増

- ・グローバル化の進展により、海外在住経験を持つ保護者が急増中。
海外大学への進学を考える 保護者・生徒も増加傾向にある。
- ・開成高校では現役でハーバード、プリンストンなどに5名が合格。
海外大学の説明会には、生徒 や保護者約700人が参加。
- ・開成高校の柳沢校長は、
「保護者が、国内の大学から大企業や官庁への就職を目指すことだけ、
望ましい選択なのかと考え始めた。生徒には、自分の夢につながる
進学先を世界の大学から選ぶよう助言している」
と話す。
- ・超エリート層だけが海外在住経験を持つわけではない。
工場での技術指導員としてかなり多くの方が海外で働き、
また日本に帰ってきている。

今後は福井でも、
増えてくるのではないだろうか



9

地方へも広がりつつある学習観

21世紀型学力への関心の高まり

- ・私立中・高の生徒募集案内には、
「コミュニケーション力」「協働する力」「グローバルマインド」「アクティブラーニング(AL)」「
問題解決型学習(PBL)」「双方向型学習(PIL)」などの言葉が並ぶ。

国公立大学入試が変わる？

社会の変化に対応して、育成する学力や
その育成手法を研究していく必要性

横断歩道のまんなかでの、以下の出来事。

——突然の強風に折れてしまった1本のビニール傘。降りしきる雨の中で、それをそのまま、そこで捨てようとする人。そんなことしちゃダメだ、危ない、と叫ぶ人。つまりいた母親の腕の中で、泣き出す赤ん坊。どうでもいいやと、足早に通り過ぎる人々。そして、信号はもう赤になったのだから、とにかく皆早くどけ、とばかりにクラクションを鳴らし続ける自動車。——
この情景をあなたが目撃していたとして、そこから得られる、あるべき社会全体の姿への示唆についての、あなたの考え方を整理して示しなさい。

2014 東京大学文科 I 類 外国語学校卒業生入試問題より

これから福井で取り組めることは？

- ・社会の急速の変化に対応する「18年型教育」のあり方を研究
- ・首都圏の学校でもまだ手探り中。県の教育アドバイザーや、福井大学・京都大学・東京大学等の研究者とさらなる連携を深めながら研究を深めていきたい。特に高校でのカリキュラム研究が必須。
- ・各教員の自発的な研究実践を支援する「教員指導力向上奨励事業」に県内の教員が取り組む際に、研究者と連携することが理想。

11

これから福井で取り組めることは？

- ・海外留学の支援や海外留学生の受け入れ
 - ・3週間の短期留学だけでなく、3ヶ月、1年の中長期留学の支援をすることで、日本を愛し、福井を愛するグローバルリーダーを育てるプログラムを。
- ・外に出すだけでなく、海外からの留学生や帰国生を積極的に受け入れることで、県内の高校生全体にグローバルマインドを育てる。人口減少対策にも？

12